

トビウオ通信 (H19 第3号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成19年度第1回日本海スルメイカ漁況予報》

平成19年4月27日に独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所より第1回日本海スルメイカ長期漁海況予報が出されました。今回はその内容を基に、スルメイカの今後の漁模様の検討をします。

今後の見通し (予報期間5~7月 日本海区水産研究所発表)

- (1) 来遊量：近年平均並み (昨年をやや下回る)
山陰では昨年を上回り、北陸では昨年を下回る
- (2) 漁期・漁場：北上が早く、漁期の始まりは早い
- (3) 魚体の大きさ：小型が多い

※ 近年：過去5年間 (2002~2006年)

日本海におけるスルメイカ資源の動向

幼生の分布量の調査結果

昨年の秋に日本海西部から九州西岸海域において日本海区水産研究所および各県の関係機関によりスルメイカの幼生 (図1) の分布量調査が実施されました。その平均採集個体数はいずれも昨年および平年値 (過去5年) よりも低い値となりました (図2)。このことから日本海西部における昨年の秋のスルメイカの発生量は、前年および平年を下回っていたと考えられます。



図1 スルメイカの孵化幼生
(外套背長約1mm)

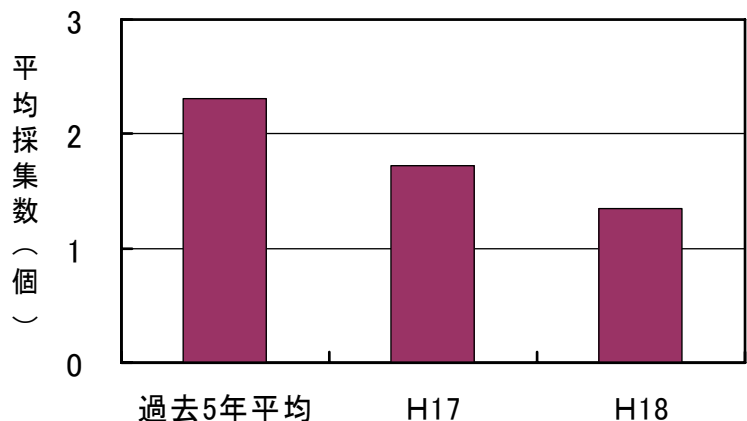


図2 日本海西部海域においてプランクトンネットにより採集されたスルメイカ幼生の平均採集数の比較 (実施時期:10~11月)

加入前のイカの分布量の調査結果

イカ釣り漁業では体長（外套背長）が約15センチ以上の大きさのイカが漁獲対象となりますが、漁獲対象となる前の大きさのイカの分布量を知ることによって漁期前に漁況を予測することが可能となります。スルメイカについても毎年、漁獲加入前の小型の個体の分布調査が実施されており、スルメイカの漁況を予測する上で重要な調査となっています。今年も4月に日本海沖合海域において、表層トロール網を用いた漁獲加入前のスルメイカの分布量調査が日本海区水産研究所や関係各県により実施されました。その結果、採集されたスルメイカ（外套背長は2～10センチ）の1調査点当りの平均採集個体数は54.4個体となり、近年では比較的高い値となりました（図2）。

しかし、今年採集された個体は外套長2～3cmの小型のものが多く、予報期間に漁獲加入する外套長5cm以上の大型の個体数については近年平均並みとなりました。この結果と幼生の分布量などから、日本海全域における今期のスルメイカの来遊量は近年平均並みで昨年を下回ると考えられます。

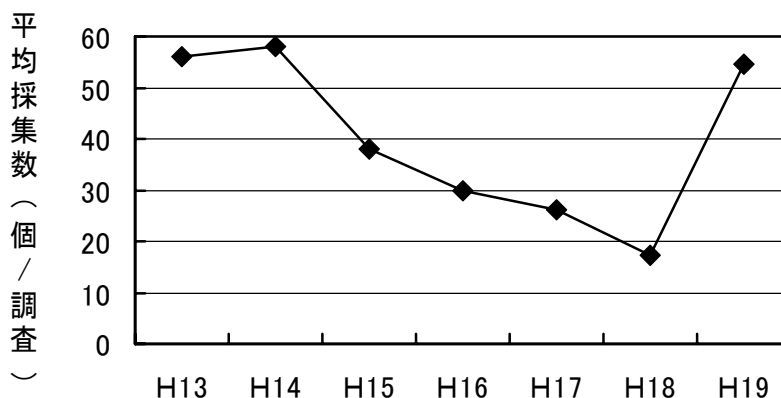


図3 日本海の沖合において表層トロール網により採集された漁獲加入前のスルメイカの平均採集数の推移（実施時期：4月）

今後の島根県沖での漁況

スルメイカは昨年よりは好調？

浜田港における小型イカ釣（5トン以上30トン未満）と中型イカ釣（30トン以上）によるスルメイカの月別の漁獲動向を図4に示しました。平成19年の3月までの漁獲量は712トンで、平年比では83%と少なかったものの、低調だった前年よりは好調に推移（前年比181%）しています。

これらのことから、日本海全域におけるスルメイカの資源量は昨年を下回ると判断されているものの、島根県沖への今後の来遊量は、平年並みで、低調であった前年を上回って推移すると考えられます。ただし、近年は5～7月の漁獲量は比較的低迷する傾向にあり、まとまった漁獲はあまり期待できないと言えそうです。

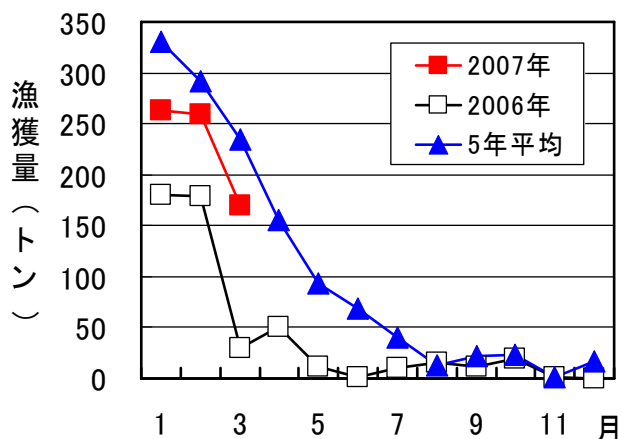


図4 浜田港にイカ釣り漁業（5トン以上）により水揚げされたスルメイカの漁獲動向（H19は3月までの値）